

# 北広島市長期総合計画審議会 第3回 環境・福祉部会 議事録

\*\*\*\*\*

■日 時 平成 21 年 9 月 4 日(金) 18:00～20:20

■会 場 芸術文化ホール活動室 3

■出席委員

長井敏行部会長、内手進委員、大川壽雄委員、大谷恵一委員、川島光行委員、  
齋藤洸委員、根岸敏子委員、榎武弘委員、森永正造委員

欠席委員

三瓶徹委員

■事務局

高橋通夫企画財政部長 前野康弘総合計画課主査

■傍聴 なし

\*\*\*\*\*

## 1 開 会

## 2 部会長あいさつ

【部会長】今日の式次第は、1 番目の分野別計画、2 番目の将来都市像に関するキャッチコピー、そして次回専門部会の日程ということになる。

それでは事務局から今日の概略、審議すべきことについてお話しいただきたい。

## 3 議事

### (1) 分野別の政策と施策について

【事務局】議事に入る前に書類を確認いただきたい。環境・福祉分野の政策・施策について郵送している。また、A3 判の施策体系は一部変更になっているので差替えをお願いしたい。

本日、他分野の政策・施策と北広島MAPを配付したので参考にしていただきたい。併せて配付した議事録は、公表済みの第1回審議会議事録、第2回審議会及び専門部会の議事録案である。第2回の両議事録は未定稿なので取扱いには注意いただくとともに、本日の参考としていただきたい。

分野別の政策と施策については、担当部局等々と調整して現段階の案として示しているものである。本日は、政策・施策の細かい審議では無く、体系や項目などから全体的な検討をお願いしたい。また、前回部会長が言われたキャッチフレーズを考えてきていただいていると思うが、都市像に関するキャッチコピー、基本目標についての議論を進めていただきたい。

**【部会長】** 将来都市像「自然と創造の調和した豊かな都市」のキャッチコピーについては、中身が大事である。キャッチコピーでいいものが出来上がれば全体会議に提案することにして、最後に取り上げる。

それでは環境の保全、第1節からだだが、基本構想と基本計画がある程度ここで明瞭になってきていると思う。

基本目標の環境・安全面から「環境と共生する安全なまち」で8項目が示されている。また、健康・福祉から「支えあい健やかに暮らせるまち」で6つの項目が示されている。この8項目、6項目に追加すべきものが無いか議論させていただきたい。

それぞれの項目に内訳も載っているが、これについても問題がある場合には、ご発言いただきたい。

**【委員】** 一読しかしていないが、未来総研で作成された500ページにわたるアンケート結果・意識調査等から、市民が何を期待しているかが少し浮き彫りになってきた。私の考え方だが、第3節の「水と緑の空間の充実」と第1節の「環境の保全」を統合する方が市民には分かりやすいのではないか。それと第5節の「消防・救急体制の充実」も意識調査によると、救急体制の充実とは医療機関の充実に対する市民の意見が圧倒的に多くあることと結びつく。

また、消防・防火・防犯・交通安全と我々を取り巻く防火防犯安全として、5, 6, 7を1つの節とする。市民を取り巻く安全環境をどう整備していくかだ。

市民から多くの意見が寄せられている医療機関の充実を救急隊を含めた医療として1つの項目として起こすべきだと思う。

「消費生活の安定」は、9月1日から消費者庁が設立され、消費者庁の業務と市役所の業務はどう変化しているのか。これも絡んでくる。

最後に「環境保全の現状と課題」には地球環境、大気汚染、悪臭、安らぎなどあるが、次にいきなり霊園の話が出てくる。必要不可欠だが「現状と課題」で述べるには個別議論過ぎるのではないか。

**【部会長】** 事務局から環境・安全を8項目に分けたことについて説明いただきたい。

**【事務局】** 従前の計画に基づく行政の組織体系に沿って整理をしており、このような区分けになっている。担当の違いなどから制約を受けていることもある。

環境と廃棄物など結びつきはあるが、具体的な取組の違いなどで区分している。交通と防犯は、昨今の情勢などを考慮して分割した。

水と緑は環境の保全に含まれるとのことだが、市が行っている組織などから区分している。消防の緊急体制については、おっしゃることも理解できるが、消防の搬送と受け入れる病院が同じとは限らず、救急というのは1分1秒でも早く病院に運び込むことが重要な点で、健康・福祉とは違うことから別建てになっていることはご理解いただきたい。

**【部会長】** どのように変わっているのか。

第1章で環境安全健康福祉であったが、2つになったと理解していいのか。現行の総合計画を見るとそうなる。

**【委員】** そんな感じだ。前回の第1章が2つに分かれている。

**【部会長】** 第1章と第2章に組換えたと理解する。

**【事務局】** 福祉を独立し、環境と安全を一つにしたと考えていただくと分かりやすいと思う。

**【部会長】** 特に役所の仕事の分課に合わせている訳ではないようだ。

**【事務局】** 交通・防犯は同じ課で担当しているが、交通安全や防犯は色々な観点から注目を浴びていることもあり分けるのがわかりやすいと考えた。

**【部会長】** 5、6、7の消防救急体制の充実、交通安全の推進、防犯対策の推進を全部まとめると、ここだけが大きくなる。どうしても5、6、7を一緒にしなければならないこともない。

5、6、7あるいは1、3を一緒にするとの意見もあるが、別れていても市民には分かりやすいと言える。

**【委員】** 市民の立場で「安全」を考えたとき、項目が1つのフレーズで済むのではないか。

確かに中身は大きく広くなる。行政組織としては多少やりにくさは出てくるだろうが、消防だ、救急だ、交通安全の問題だとは瞬間的に分別しづらくなっている。

**【委員】** 確かに市民の目線でいくと「安全」は大事な部分。消防も火災も防犯も分ける理由はないが、行政では3つに区分している。現に民間の体制も分かれている。

現状の形で安全が図られていることを考えると、体系で示されているとおりでも特段のことではない。

ただ、なるほどと思ったのは、ここ数年間で急病人が出たときにたらい回しにされるという問題がでてきている。市民の目からみると搬送だけでなく、病院に送り届け、受け入れてもらうことが一番大事。

この関係をどのように表現していくか。

**【部会長】** 「救急救命体制の充実」と「医療体制の充実」の関連についてどう考えるか。健康づくり・地域医療の充実としては難しい。

**【事務局】** 内容が重複してもかまわない。消防で搬送を中心に書き、健康福祉では医療体制、緊急時の受入体制を書く。書き方を変えればいいと思う。

**【部会長】** 市民感覚としては、搬送と受け入れと一緒に記載されるのが分かりやすいと疑問が提示されたのだと思うが、それについてどうか。

別々の記載でも問題はないと考えるか、問題だと考えるかの違いだが。

**【委員】** 緊急体制の搬送はともかく、受け入れは地域医療の充実の中で体制が確保できればよいのではないかと。多少肉付けをすることで問題ないと思う。

**【委員】** 救急体制と医療体制とは別項目で設けるのが市民としては分かりやすいと思う。

また、消防・交通・防犯というのはそれぞれ別々の組織で連携は全然ない。各々が市と連携し、相談して進めている。新しい市民の感覚からは、防犯も消防も交通安全も別物の意識がある。

昔は、なんでも警察、消防署で解決したが、今は細分化され、個々の市民が考えて対応していることから分割しない方が分かりやすいと思う。

**【部会長】** 実際には消防・交通・防犯綱は分割されていて、横のつながりは薄いとの意見だが、これについてどうか。

先ほどの消防・交通・防犯が別々であると市民感覚からして分かりづらい点をもう少し説明願いたい。

**【委員】** 犯罪、交通、防犯と区分しづらい事案が発生してきている。犯罪による火災の発生、罪を犯して交通事故を起すなど、犯罪の多様化に伴い「市民が危険にさらされている」ことからまちの安全を構築していく大きな枠組みとして捉えるべきと考える。

**【事務局】** 「すべて安全」とすることも分かるが、その中には色々な分野がある。「安全」としたとして、逆に市民の皆様が「安全」とは何かとなるのではないかと。

交通安全はどうする、防災はどうする、防犯はどうすると、一目でそれぞれの項目があり、アプローチできるのが分かりやすいのではないかと。

**【部会長】** それぞれの区分けが段々無くなっていることは理解できるが、防災、交通安全、防犯がそれぞれあるのが直接で分かりやすいと思う。

境界をあまりにも取り払ってしまうと、むしろ難しくなってくる。

そのほか、8項目についてどうか。

**【委員】** 国民保護法などの計画についてはどうなっているか。

**【事務局】** 防災計画などでも分野ごとに1つの項目として1本化・体系化されている。

**【部会長】** 次に、健康・福祉の6項目について、追加すべきものなどお伺いしたい。その後、「環境の保全」と「健康づくり・地域医療の充実」を通してのご意見をいただきたい。

**【委員】** 第3章第4節の「障がい福祉の充実」だが、「障がい福祉」という言い方をするのか。「障がい者福祉」となるのではないか。言葉の使い方についてどうなるのか。

**【事務局】** 「障がい福祉」と「障がい者福祉」と両方の表現がある。障がい児と障がい者をともに表す意味でも「障がい福祉」の表現としたということである。

**【委員】** 「障がい福祉」という言い方があるということでは理解する。

**【部会長】** 説明を聞いて“者”のない意味が良くわかった。しかし、いちいち説明をしなければいけないということにはならないと思う。これは表現の問題だが。

すこし戻るが、「環境の保全」の現況と課題の中で、霊園に関して適当かどうかの指摘についてはいかがか。

**【委員】** いくら高齢化社会といってもショッキングな表現。数行で表す程度で、全体のバランスからも本当ではないかと思う。中身も具体的で違和感を感じる。

**【部会長】** 入れるにしても、もう少しあっさりと言葉で表現することをお願いしたいが、よろしいか。

それでは「現況と課題」であっさりと言葉で、施策の中で具体的な計画を書いてもらうこととしたい。

**【委員】** 火葬場の改築の計画はないのか。

**【事務局】** 火葬場自体、49年の建設なので施設としては老朽化が進んでいる。改築する動きは出ているが、北広島市で改築するか、他市などと共同で施設を保有するか、火葬場の問題として課題がある。

**【部会長】** 霊園はまだ余裕があるのか。

【事務局】 霊園そのものは余裕がある。

【委員】 都市基盤に含める訳にはいかないのか。生活環境だと思う。安全とか福祉の問題ではないような気がする。

【事務局】 区画的な整備という部分もあると感じるが、現計画がこの分野だったのでこのままとなったと思う。霊園は公園に近い部分もあるが。

【委員】 現在、開発の動きがないが、火葬の施設が近くにくると住民問題になる。住宅の周りに建てるとなったら、日本中大騒ぎしている。これは都市計画の中に含まれるのではないか。

【部会長】 公園の整備という案もある。これについては、事務局で考えていただきたい。都市基盤建設に類するものと疑問が出されたとして考えていただく。

【事務局】 部会のまとめとして、他部会の関連もあることから、10月の全体会議に諮り検討していただくこともできる。

【部会長】 一つの提案として諮っていくことにする。他に何かあれば。

【委員】 前回の北広島の人口ピラミッドの件だが、かなりの高齢化・少子化が一目瞭然となっていて、10年間では1.3くらいの出生率で推移する。65歳以上の人が人口の3割ほどを占める。しかも世帯構成で単独世帯が増えてきている。

その辺にスポットを当て、10年計画を作るとしたきに、福祉の分野で先取りして考えているものがあるのか。何が発生してもこの項目で吸収できるのかどうか。

【部会長】 単独世帯と夫婦の世帯と46.3%。それに一人暮らしと子どもからなる世帯を含めると本当に深刻だ。

【委員】 お互いに元気な世帯なのか、そのうちどのくらいが介助をしているのか。相手の介護もできない状態が発生しないのか。この主旨としてはそのままがいいのかということだ。

【委員】 項目としてはこれでもいいと感じたが、項目では第1節の「健康づくり・地域医療の充実」、第2節の「地域福祉の推進」ここに当てはまると思う。

要するに地域力。ごみの問題や除雪の問題など、これから5年先、10年先を考えると多分そういうニーズはもっと高くなる。項目の中身で表現して、整理していく必要がある気がする。適当な表現がないが。

【委員】昔であれば隣近所同士、おかず作って一品持っていくとか、毎日声かけをするとか、そういうコミュニケーションがあったが、今は非常に希薄になっている。同じ町内会でもそっぽを向いて歩いている人もいる。

【部会長】中身については議論にはいるのか。次回と言っていたが。

【事務局】今回で部会が終わりではないので、今後、具体的なものについて意見交換ができる。10月6日全体会議での報告を含めた形で、全体について一通り行っていただきたいと思う。

【部会長】このような問題があるのだと認識して、次回の部会で議論を進めさせていただく。

【事務局】皆さんにも考えていただき、次回の中で議論をしていただければと思う。

【部会長】了解した。政策の項目について何か追加すべきものなどはどうか。

5、6、7を「安全」で一つにするには、あまりにも中身が細かく分かれすぎる。健康福祉の1から6についても境界があるようで無いような問題も出てくる。環境の8項目はこれを認めて、後は中身で充実させていくという形を取らしていただきたい。

【委員】議論してもきりが無いと思う。福祉について考えると非常に範囲が広い。福祉関係を全部「福祉」に1本化できるかというとなかなか難しいだろうと思う。

【部会長】項目は示された体系通り、今回の部会は承認したということにさせていただく。

それでは、先ほどの「障がい福祉」が「障がい者福祉」でないかという意見について、何かご発言があればお願いしたい。

【委員】「障がい福祉」というのはあまりピンとこない。第5節「高齢者福祉・介護の充実」という言葉もある。中身からしても「障がい者」の表現が一般受けすると思う。札幌市は「障がい者」か。

【部会長】「障がい福祉」という言葉を使っているということだけである。部課名としては「障がい福祉課」というような表現をしているところもある。

【事務局】「障がい者」に限定しない。「障がい者」、「障がい児」等を含めてる考え方で札幌市も要約している。

【委員】「高齢」も「高齢福祉」で「高齢者福祉」ではないと思うが、あまりこだわらないことにする。

【部会長】わからない人は“者”がつくつかつかないのかの違いは理解していない。

【事務局】公式ではないが、障害者の方からすると、「障がい者」とした場合、「障がい児」はどうなるのだという戸惑いはあるのかもしれない。一般の方は、障がいのある方を「障がい者」という形で意識することはあまり無いので、障がいをもたれている方がどうお感じになるかと言うことを大事にした方がいいのではと思う。

【委員】障がい者というのは、医療介護とか限定された人が「障がい者」になる。障がいはそこまでいかない人も含まれているのでは。

【事務局】認定された方でなくても、表面化していない障がいをとらえることもあるかもしれない。

【部会長】現在の「北広島総合計画」では、「第4節 障害者福祉」となっている。

【委員】「障がい児」とは障がいのある方、「障がい者」を念頭に置いていた。今回の「第4節 障がい福祉の充実」の1、2を見ていくと、障がい者の社会参加の促進とか障がい者の地域生活支援の充実の意味だと思う。

内容的には障がいをもっておられる方という意味合いだと思うので、表現としては「障がい者」でも何ら抵抗は無い気がする。

【部会長】「障がい者福祉計画」があると思う。法律に基づいて作っているはずだが、その名称はどうなっているのか。

【事務局】改定があったが確認してみないとお答えできない。

【部会長】調べていただく。札幌市ばかりでなく近隣の市についても。

【委員】選挙結果により政権が交代することが確実になったが、この案は選挙後の新しい政府の方針を見越して作っているのか。

【事務局】考慮していない。福祉の分野では大きく変わる部分もあると思うが、現行の自立支援法などを基本に表記している。

早い段階で明確になれば修正をしていかなければならない部分は出てくる。今の検討段階の中で予測検討は難しい。



【委員】教育文化に関しても、子育ての2万6千円の問題に関しても、確かに変わってくる。

【事務局】政策転換への対応については、10年という基本構想ではそのままとすることも可能かも知れないが、計画の部分については、5年で見直しを行うなどの表現を入れることも考えられる。

【部会長】もう一つよろしいか。消費生活の安定で消費者庁が発足したことで、都道府県市町村とネットワークが組みまれると思うが、これについても中身で触れなければならないのでは。

【事務局】ネットワークとして情報収集を1本化して吸い上げを行い、各省庁に対して指示を出すということだと思う。明確になればそれも盛り込むか、言葉として表現する程度と感じている。

この節は、もっと身近な部分の問題解決に取り組むことに変わりはないと考える。

【部会長】ネットワークが明確になれば、含めて表現をするということもありうる。ほかに、こういう表現があった方が良いのではないかというのがあれば、審議会や今後の部会で検討させていただくので。

【委員】健康福祉の「医療体制の充実」と、消防の「救急救命体制の充実」のどちらも、救急に対する焦点がボケているように思う。これで一項目を作るという考えがあると思うが。

【部会長】地域医療の充実の中の「医療体制の充実」で書いてあるのが、夜間救急体制のことだけだが、他にもあるのでは。

【事務局】市の範囲としては、通常病院が開いていない時間帯にもある程度対応できるまでのところとなっている。

消防の救急は、搬送する部分、市内の救急センターも当然関係はするが、札幌の病院など広範囲での対応となるので、1つにするのは厳しい気がする。

【委員】これは難しい問題を含んでいる。最近の広域消防の問題、医療の問題も広域化の中で議論をされている。福祉も同じ。

その意味で、今回の議論は北広島市のまちづくりという視点に立って議論をしている。住んでいる人の満足度がどれだけなのか、やはり札幌市とか恵庭市とか周辺都市の理解と協力がないと、本当の意味の住みやすさというのは表現できないと思う。

北広島市のまちづくりに限定しているから、議論が行き詰まってしまう。

地域のもう少し広範囲な仕組みの中で議論してもいいと思う。

部会の議論に馴染まない部分があるのかもしれないが、北広島市だけで考える表現でいいのか。

**【委員】** 要するに一つは市民の理解である。今、市立病院がないということが北広島市のひとつの特徴だが、ほとんどの自治体病院が赤字になって、財政負担が大きくなり、医者もいなくて、救急体制も取れないという現実がある。市が「公立病院は作らない」としてきたことは、財政の面からいっても良かった気がする。

それにもう一つは、特殊な土地柄というか、札幌に近い。エアポートでも16分で行ける。札幌の郊外の人より北広島の人が近いということもある。

例えば、根室の市立病院が難しいことになっているが、根室の市民があれだけ言っても、根室の市立病院にかからないで、ほとんど釧路に行っているという現実がある。北広島の市民の1/3から半分は札幌市の医療機関にかかっているという現実がある。

北広島独自ということは非常に難しく、市民の無いものねだりでもある。

それでは、市民はそれだけの財政負担を認めて作っていくのかという議論が1回もなされていない。さらに、北海道は、地域の振り分けを札幌市の範囲から千歳、恵庭、北広島へ移行する。これは救急体制もそうだが、そうになるとほとんどの市民には理解されないと思う。

病院にきて、「あなたの地域は、千歳の市立病院に行きなさい」と、それで市民が納得するかという話になってくる。基本の地域の振り分けは道の方針としてかなり縛りが強くなってきている。それに従えというものがある。

問題なのは、産科の医療機関がないので困るということ。市外でお産をしなければならない。しかし、年間400人前後しか新生児が生まれない北広島で、全部がひとつの産婦人科にきたとしても、採算ベースがぎりぎりだ。市内に産科ができたとしても、半分以上が札幌市でお産をすることになる。

市民の基本的に言っていることは正論だが、現実的には非常に難しい。

石狩でも同様。北広島市が特別ではない。

**【委員】** 高齢者の福祉の問題で介護など色々な問題がある。高齢者の施設には札幌の方が大半を占めている。北広島市でそれを利用しようとしてもできない。それも市民が満足していない部分である。

相互契約を札幌市と北広島市と結んでいるのか。人口の多いところが待機率も高いが、入所率も高くなってきている。実際、北広島市からの入所は限られている。それも料金がかかりすぎる問題となっている。

**【委員】** 過去10年とこれから先10年の何が違うのか。もちろん住んでいる人の年齢層とかもあるが、社会環境としてはITの時代、それから情報化時代がどんどん進

むと思う。

地域的な広がりがかただん狭くなり、北広島市だけでやれることには限界があると思う。周辺市町村と連携を取りながら進めていく発想が必要であり、それがないとチンケな議論になってくる。

市民の方は、買い物から始まり、結構札幌に行き来している。千歳に行くのは東京に行くとき、ほとんど札幌に向いているのではないか。市民のためを考えると、そんなに整備をしていくことではないと思う。

**【委員】**北広島市は施設の数は足りていると道は見ているが、待機している人はかなりの心労。高齢者施設を作ろうとしても認可されない問題がある。

**【委員】**自分の身内で現実のことだが、病院の治療が終わり自宅では介護は無理だということで、北広島近辺とか市内でそういう施設に入れたいと思っても無い。

片道2000円くらいかけて、遠くの施設に行かなくてはいけないというのが現実である。

自分の両親をみるということになったら、一番通いやすいところを選ぶことになるが、そのようにはいかない。どこで妥協するか。本当は、手稲の奥にある病院が良いと言われた。

先ほどの認可についても、どういう基準で認可されないのか。どういう線引きで足りていると判断されたのか知りたい。

**【委員】**それははっきりしていること。医療費の削減として小泉内閣が実施したこと。療養型の病棟は40万を20万に、まず介護型の療養病棟、次に療養型の医療の病棟も減す。

今の問題は政策の問題でもあるが、要するに家族で面倒を見るという方針。それがこれからの社会で妥当であるか。今回の民主党は削ることはしない、療養病棟も現存のままとするとあるが、政権が変わればまた変わる。

共稼ぎで（夫婦が）2人が働いていて、家庭にみる人が居ないのに、両親の面倒は誰がみるかという話になる。一つは医療だけの問題ではなく、教育の話にもなる。

ある程度病状は決まって、病院では何もすることは無い。今は痛みの回避はかなりできるようになっているから、外来でと、あとは家でみなさいというのが流れである。それをどうするかは、まさに政治家の話になってくる。

**【委員】**若い人たちが家にいたいと思う体制ができているか、ということが大事。私たちの年代が「このまちに住んでよかった」、「1日でも家に長くいたい」と思える状況をつくれれば、若い人たちも集まってくるだろうと思う。

**【委員】** 今の話は北広島市の問題ではなく、政治、国全体の問題である。北広島市だけで考えると、財源の問題になる。若者が出て行かないように、老人が暮らしやすいようにというのはどこのまちでも考えていることで、それを国に求めているが、自治体単独で考える場合は財源もないし、手立てもないのが現実である。

**【委員】** アンケートによると、このまちの医療に満足しているのは1割程度でしかない。そして、病院施設がほしいという人が300人くらいいる。さらには、こういったことに不安を感じていて、市から出ていきたいと考える人も、年齢が上がるにつれ、割合が高くなっている。医療体制の充実の中で肉付けが可能か、検討する必要があると思う。

このアンケート結果から読み取れることに対して、しっかりと議論した上で計画を策定しないと、本当にちゃんと考えているのかという批判を受けることになるのではないか。

**【委員】** 自分が所属する組織でアンケートを取ると、「足」、つまり移動手段に対するニーズが高い。地域間を結ぶコミュニティバスのようなものがないことが障害となっている。そこでコミュニティバスを運行しようといろいろと動いてみたが、路線バスが走っているところには許可がおりない。西の里、中央、輪厚、大曲を結ばないと意味が無い。

今の年寄りには病院に行くのが大半、買い物の足で困っているのが、大谷地であるとか札幌にと市にお願いすると、財政的に難しいとのことだった。

北広島市が医療体制を十分に整備できないのであれば、交通体制を充実して札幌市の医療機関を有効に活用できるようにするという事も考えなければならない。

**【部会長】** よくわかった。

地域の市町村とのネットワーク化。医療体制を充実させるためには非常に重要であると。財政の面もあるが、議論していいネットワークができる結論を出せばよろしいのだが。

それと、先ほどの「医療体制の充実」と「救急救命体制の充実」を一体にする意見だが、地域市町村とのネットワーク化を考えれば、「医療体制の充実」は、そのまま残した方が良く思う。夜間急病センターは救急車で搬送されることだけを意味するわけではない。ちょっと熱があるから行くとか、そういう人のため問題として確保するといっている。

医療体制の充実は、交通も関連したネットワーク化もある。項として別にしておくほうが将来的に議論しやすいと思う。そういう考えでよろしいか。

**【委員】** ネットワーク化を1つの項目として議論を深めると、石狩管内の意識で検討される可能性がある。

【委員】石狩も納得していないが、北海道は、北広島を含む中核は千歳保健所として  
いる。行政指導もあるが、とても違和感がある。

【委員】市民の側からすると札幌となる。ネットワーク化の言葉は良いとして、もう  
少し具体的な議論にしていく必要がある。市民には色々な問題がある。

【委員】利便性を考えればそうなる。整理していかなければならない。

救急の問題は、救急で別個に進化している。ある都市では医者通勤に使う車を全  
部救急車として、途中で何かあったら直ぐに救急車に変わると書き物があった。そう  
して救急車をカバーしているのだとか。

## (2) 将来都市像に関するキャッチコピーについて

【部会長】項の中身にどんどん入っていきしたが、それについては、またご意見をお伺  
いするとして、最初の将来都市像のキャッチフレーズについて、「自然と創造の調和  
した豊かな都市」という最初に総合計画をスターとしたときから、変わること無きキ  
ャッチフレーズ。それはそれで一貫していいと思うし、途中で変えるのもどうかと思  
う。

ただ、最初の計画した時代からの変化もあり、若干の変更をとの意見も一理あると  
思うが、何かこういう表現がというご発言があれば議論したい。

「自然と創造の調和した豊かな都市」。慣れ親しんできたキャッチフレーズだが。

【委員】市役所では検討されたのか。

【事務局】最終的には今後詰めることだが、継承していくことで了承は得ている。

全体会議の議論で、これを補完する表現を加える、わかりやすい言葉で表すことはこ  
れからのことである。ただ、北広島が柱としてきたものについて、ここで変えるとい  
うことであれば、変えるときの定義だとか、なぜこのように変えたという考え示す必  
要がでてくる。柱としては継承していきたい。

【委員】この先10年として、市民の方が分かるのかどうか。直感的には分からない  
と思う。

「自然と創造の調和した豊かな都市」は分かるが、恵庭とそっくり。「水と自然が調  
和した豊かな都市 恵庭」。北広島も恵庭から水を買っている。

この表現で果たして今、あるいは10年後、若い人にも分かってもらい、かつ、活  
性化に努力してくれるだろうか。

**【部会長】** 変えても構わないが、しかしながらこの表題は40年間、半世紀守ってきた都市像。ここで変えるよりは、必要であれば副題を付けるのが良いのではないか。

**【委員】** 「自然と創造の調和した豊かな都市」の中身がよくわからない。

**【事務局】** 「自然と創造の調和した豊かな都市」というのは北広島市のテーマとして良いかというのは議論している。「創造」、大地を動かして何かを作り出すというイメージもある。昭和45年、総合開発計画が策定されたときには、まさにそれがぴったりだったのかもしれない。今の時代にそれが通用するのか。普遍的な言葉として良いかというのは議論としてあると思う。でもこれからもまちづくりを継続的するしかない。トンカチだけではなくクリエイションとして、この部分については色々な捕らえ方がある。

時代時代にどう変わるかということは、中身で整理すべきこと。今回はそう考えたい。この言葉そのものは、昭和45年からずっとやってきたまちづくりのテーマだよと。ただ、このまま活かして良いのか、分かりづらいというなら、先におっしゃられたとおり、向こう10年に向かって分かりやすいキャッチフレーズを付けてみてはと思う。

**【部会長】** どういうキャッチフレーズなら分かりやすいのかということがある。北広島市が目指している都市像とは、色々なご意見が出てくると思うが、ご発言があればお願いしたい。

**【委員】** 何か変えたほうが良いなという気持ちがあるが、いざとなるといいアイデアが浮かばない。

**【部会長】** 一言で北広島市をイメージさせるのは難しい。それが都市の顔だということになると別問題だが。

**【委員】** 副題を付けるのが可能というのなら、この部会、それから産業部会、教育部会の各々が1つの題をつけて3つ並べるという方法もある。今すぐというところの部会の目標が出てこないが。

皆さんが言われるように生かした上でという意見で、後10年に向けて各部会でつけるという方法もある。

**【委員】** 先ほどから出ているように中身の問題でもあるし、10年経っても「自然と創造の調和した豊かな都市」にはなっていない。

**【部会長】** 過去40年間続けてきているが。

【委員】やはり、中身を補てんした方がよい。これを考えておくと、非常に洗練された都市作りになっていくと思う。

【部会長】市としては「自然と創造の調和した豊かな都市」をどのような形で市民に訴えて、どのような機会に発信しているのかお聞きしたい。

例えばホームページに書いてあるとか。北広島はこんなまちですよと書いてあるとか。小学校や中学校のときから徹底していけば、「私はこんなまちに住んでいる」と思えるのではないか。北広島市の精神は、このような豊かな都市を目指していることをアピールしているのかをお聞きしたい。

【事務局】正直なところホームページに大きな将来都市像を表に出していない。不十分な面があると思う。

【部会長】北広島市は「Boys be ambitious のまち」とのキャッチフレーズもあったと思うが。総合計画でこのようなまちを目指すということは別個の問題だが。

どちらにしても、訴えていくことが必要ではないかと思う。

【事務局】「自然と創造の調和した豊かな都市」を言ってきたこともあるが、大々的に市民の皆さんへPRしていたかという点、そこまで徹底したことは多分やっていない。

他市からこられた方にご説明するときは、「自然と創造の調和した豊かな都市」が基本的な命題であるが、向こう10年の考え方としては、「健康安心都市」「交流文化都市」「活力発展都市」をまちづくりのテーマだにご説明している。

【委員】ここに住み続け夢をみていたい。そういう意味で「創造」という言葉を無くしてしまうと、実につまらないキャッチコピーになってしまう。「創造」という言葉がキャッチコピーとしてどうかとの疑問はあるが。

何十年も将来都市像を描いて、これからも描こうとしている訳ですから、この可能性をこの場で潰すのはいかがかなと思う。

北広島はどんなまちかと聞かれたときに答えようが無い。森の豊かな、自然の豊かなまちだ程度しか言えないのはまずい。向こう10年を目指して、もう少し周りの人達にきちんと言える都市像を示す必要がある。

そのためには、このキャッチコピーは残して、それに向けて住みよいまちを作るのか考えた方がよいと思う。ここであえて否定する必要はない。

北広島は交通の要所といわれている。産業面では色々可能性があるのではないか。それから健康福祉のシンボリックなまちづくりも可能ではないか。教育・文化も。

もっと具体的に夢を実現できるまちというのは表現できる。そういう意味でキャッチコピーはなくせないと思う。

**【部会長】** キャッチコピーを小学校・中学校のときにはっきりとすり込んでいかなければならない。委員になって初めて「自然と創造の調和した豊かな都市」を知った、これではいけない。

市民が一度は聞いたことがある、一度は関心を持ったことがあるということが必要ではないかと思う。

**【委員】** 今はビジョンについて語らない、周知しない。家庭でも同じ。お父さんは知らない、お母さんだけは考えているなど、そういうケースがけっこうあるのでは。

職場によっても違う。このまちづくりとは、自然も基本だが、人も基本、生活も基本。それを一部の人達だけが分かっているても何の利益も効果も無い。少なくともその10年前から子ども達に周知する。それだけでなく、一人ひとりの市民参加もなかなか高まってこないし、ボランティア意識も出てこない。人を愛するという意識も出てこない。

他人は他人、自分は関わらないという人間がどんどん増えてくる。緑だけが青々と豊かであって、創造という表現を噛み砕かないとわからない言葉では、北広島市にとってマイナスだと思う。明確にすべき。

居住して20年。北広島市は自分を売り込むのが下手なまち。もっと知名度を上げようとみんながすべきなのに、住めればいいということに安住してしまっている。

30年、40年経ってあれも足りなくなってきた、これも足りなくなってきた、自分が年を取ったらこういう風にして欲しい、これも不安だ、そういうことだけが増幅してくる。そこが懸念するところである。

**【部会長】** 全くそのとおり。このキャッチコピーをもっと広めるということの努力が必要。キャッチコピーだけを取り替えても、周知徹底させなければ意味が無いことである。

**【委員】** 時々中学校に、臨時講師として呼ばれて話をすることがある。1番つらいのは北広島の基幹産業を聞かれたとき。答えようがない。農業ともいえない。札幌のベットタウンかと聞かれると情けなくなる。何が基幹産業かということ。

そのへんからキャッチコピーを作っていたほうがいいと思う。

**【部会長】** どんな場合でも「自然と創造の調和した豊かな都市」を使ってもらうことが必要だと思う。

**【委員】** 市から出す発行物に、これだけは入っているのも良いと考える。

**【部会長】** その下に「Boys be ambitious」のまちか、花がきれいとか、福祉が充実しているなどがあれば結構なこと。全て「豊かな都市」を目標にしているという気持



ちが表れれば、このキャッチコピーはこれでいいのではと思う。

それでよろしいか。

今日の基本構想と基本計画の議論をしてきたが、事務局で何かあれば、さらに議論を続けたいが。

**【事務局】** 審議会での3つの部分をもう少し論議していただき、サブテーマについて考えていただければと思う。

基本目標の設定について論議していただき、項目は大筋で了解を得たと思う。都市像についても基本的に継承するとのことなので、それ以外の基本目標の表現だとか、2つの分野をまとめるフレーズ、重点プランなどが前回からの検討であった。

今回と次回で議論を進め、終わりに全体会議に向けたまとめを行っていただきたくお願いしたい。

**【部会長】** 了解した。将来都市像の「自然と創造の調和した豊かな都市」については問題無しとこの部会で決定させていただく。

基本目標が2つある。この2つを上手く表現できるようなフレーズがあれば持ってきていただきたいと申し上げていたが、何かご意見は。

これは他の部会との調和というものもあることから、ご意見をお聞きする程度に止めたいと思うが。

この後、重点プランについて、部会の「環境保全」と「健康づくり・地域医療の充実」、特に「医療体制の充実」で色々ご意見がありました。そうした議論のなかからでもあればピックアップしていただければと思う。

それを中心に次回は議論をしていただくこととする。重点プランは概要の4ページにあるが、その結果がどの程度達成できたかをお聞きしたいと思う。

これは重要と思うことを次回にご指摘いただく。重点がいくつもあっては困ることになるかもしれませんから、この部会の重点を置くべき個所はここという結論が出ればよいと思う。

**【委員】** 次回は、個別の施策の中身までは入らないということか。

**【事務局】** 深くとはならないと思う。全体会議に向けてまとめる関係もあることから、基本目標や重点プランも、都市像に対してのサブテーマ、キャッチコピーなどのイメージを作っていただくこともある。

**【委員】** これからの議論の進め方だが、今までと同じような議論の進め方でいいのか疑問に思う。

市民にとって納得がいくようなまちづくりが大切。ネットワーク化の話があったが、近隣都市とのネットワーク化、それから都市間の分業など、札幌も北広島も、千歳も

恵庭も同じようなことをやっているのは非効率的だ。もう少し広域的に物を考える発想が総合計画を作るときに馴染むのかが気になる。これがないと、非常に市民の満足度は落ちると思うのだが。

市民の皆様が、北広島に住みたい、北広島に住めば安心して暮らせるという絵を描くことであれば絶対外せないと思うが、この辺の議論というのは馴染むのか馴染まないのか。あくまでも北広島市の限られた範囲の中での議論をしていくのか、お伺いしたいと思う。

**【部会長】** 議論の進め方として、近隣の市町村とのネットワーク化、あるいは都市の分業を考えたらどうか、あるいは効率的な物の見方、具体的な目指す都市像を考えたらどうかということか。

**【委員】** 場合によっては one of them かもしれない。北広島市はこの部門を担う。例えば、障がい者の問題にしても札幌の市民の障がい者を結構受け入れている。ところが色々な問題がある。そういう具合にそれぞれの都市で色々な環境等を活かした特徴があってもいい。そういうような発想にしないと、札幌も恵庭も千歳も同じように、あそこでこうやっているからこっちもこうやろうというのではもう限界にきているのではないか。財政的にも、それから物の考え、人的にもと思う。

**【委員】** そういうことに気づいてやっている都市もある。

**【委員】** 消防などもそうなる。近隣の都市と結ぶ計画があるのでは。10年後には当たり前になってくる。

**【委員】** 今回の政権ではないが、市民の目線から行政がどうあるべきかという視点に立って、そういう議論がこれから必要だと思う。

**【部会長】** 都市の分業を含めたネットワーク化ということ北広島市の目指す都市像にすべきなのかどうなのか。そこまでの結論は出ていない。

**【事務局】** 連携をするということは、今の時代の大きなテーマである。それは全然問題のない話だが、現状問題として何ができるかは別の話である。既に議論になって計画が出ていて、北広島は石狩管内全部が1つの大きな体制になろうとしている。ただいきなりそこにはいけないので、北広島と千歳、恵庭の3市で1本になろうという議論を進めている。また、一部事務組合というシステムが昔からあるが、水道とか、汚水とか、し尿の処理とかで行っている。

それから札幌広域圏組合では、都市間の問題とか色々なことも広域的に行っている。基本的には1つのまちで全部のことをやることはできない。現実問題は、機能分担

や役割分担をどうするか、その中で北広島市はこれを担う。そのときに北広島の市民は他市の施設を利用していただくということは、当然これから出てくる。

もちろん行政と行政との関係はありますので、様々な協議は必要になるが。

**【部会長】**先ほどの意見を前提に、将来の北広島市の都市像を考えていきたいと思うがよろしいか。具体的になると議論の多い部分だとは思いますが。

札幌に行きたいのに千歳に行かされるのは、ちょっと違うと思う市民も多いと思うが、ネットワーク化、分業に異論はないと思う。ただ、分業する場合には、何を分業するのか、明確なものがなければいけない。

どうしても譲れない、北広島独自でやるべきものもあると思うので、分業するといっても、お互いの利益がぴったりと合えばいいが難しい部分もある。ただ、目指す方向としては、ネットワーク化、分業でいいと考える。

基本目標はこれでよろしいか。

将来の都市像ということになると、自然を大切にすることが重要。人も減っていく。質を高めることが重要。質を高めることがネットワークにつながる場合もある。ネットワーク化することによる自前の責任の所在も出てくる。

そういう点についても、次回の部会に向けてみなさんの考えをまとめてきてもらえればと思う。

#### 4 次回専門部会の日程

次回の日時は9月24日木曜日、開始時間は6時から。場所は芸術文化ホールで了承された。

#### 5 閉 会